

ルカによる福音 9章 11 節以下

9:11 神の国について語り、治療の必要な人々をいやしておられた。

9:12 日が傾きかけたので、十二人はそばに来てイエスに言った。「群衆を解散させてください。そうすれば、周りの村や里へ行って宿をとり、食べ物を見つけるでしょう。わたしたちはこんな人里離れた所にいるのです。」

9:13 しかし、イエスは言われた。「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。」彼らは言った。「わたしたちにはパン五つと魚（さかな）二匹しかありません、このすべての人々のために、わたしたちが食べ物を買に行かないかぎり。」

9:14 というのは、男が五千人ほどいたからである。イエスは弟子たちに、「人々を五十人ぐらいずつ組にして座らせなさい」と言われた。

9:15 弟子たちは、そのようにして皆（みな）を座らせた。

9:16 すると、イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた。

9:17 すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二籠もあった。

キリストの聖体 2013.6.2

<はじめに>

5000 人を具体的にイメージすることができますか。わたしは年とともに人ごみが苦手になり、大勢の人のいるところにはずいぶんのご無沙汰しています。わたしがいままでで一番多くの人を見たのは 30 年前の日本ダービーの時ではなかったかと思えます。10 万人以上の人ごみの中で馬が走るのを見たことがあります。ものすごい熱気と迫力でした。野球やサッカーまたコンサートなども多くの人が集まる場所です。

5000 人を皆さん、それぞれにイメージしてください。

<出エジプト>

モーセは 60 万人のユダヤ人をひきつれてエジプトを脱出しました。彼ら 60 万人の食糧問題は天からのマナで解消されました。それも 40 年間にわたってマナはとだえることなく供給されました。それに比べるとイエスのパンと魚はちょっとスケールが小さい。しかし「新しい掟」のところで触れましたが、数の多い少ないは本質的な問題にはなりません。

<5000 人もか、たった 5000 人か>

5000 人の空腹を満たす、すごい奇跡です。でも奇跡をおこせるのならもっと多くの人を救うことを何故しないのか、と思う人もいるでしょう。5000 人しか救えない、救わないのはおかしい、当時ももっと大勢の人が飢え苦しんでいたとわたしたちにも簡単に想像できるからです。

ロシアの SF 小説に「ふえるパン」という話があるそうです。

研究者が「裂くとふえる」パンを発明し、人々の食糧問題、飢

えの解決ができたというのです。しばらくはよかったのですが、そのうち困ったことが起きた。パンが増えすぎて家からはみでてしまう、家がつぶれパンの下敷きで死人がでるといふ騒動がもちあがりました。研究者はみんなに泣きつかれてパンを殺す、いやペチャンコにする薬をつくり一件落着という話です。

<きょうの福音>

13 節 イエスは言われた。「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。」

16 節 裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた。

わたしは今回、聖書を読んでいて初めて気づきました。このやり方はプロテスタントの聖餐のやり方です。牧師が長老や役員にパンをわたし、牧師が直接配るのではなく、長老たちに配らせる、というやり方です。神学校では習ったのですが、記憶からおちていました。プロテスタントの聖餐はこの聖書箇所を根拠にしているのでしょうか。

イエスがこのように自分でパンを与えず弟子たちにやらせたことも意味、含みがありそうです。

第二朗読を再読します。I コリ 11 章 23 節以下です。

11:23 わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。

これは制定の言葉という聖書箇所です。古い記録だと言われ

ています。教会ではこの制定文を読みあげ、聖別して、神父、司祭、牧師が信者にパンを渡します。

カトリック、オーソドックス、聖公会では聖餐は毎週、記念としておこなっています。一方プロテスタントでは、聖餐は月一回が標準になっているようです。

同じキリスト教なのだからやり方・回数も同じにすればいいと思いますが、一向に歩み寄る気配がないのは残念なことです。宗教は個人の趣味の問題ではないのですが、教会の統一ができないのであれば、せめて聖餐の方式も信者が選択できるようにすればいいのになあと思います。

パンも信者が種類を選べる。ワインも銘柄を選べる。

カトリック、オーソドックスは基本的には信者にはワインは提供されませんが、聖公会は信者もワインにあずかれます。一般的なプロテスタントでは酒はご法度になっていて聖餐でもジュースしか提供しません。子ども扱いと感ずるのはわたしだけでしょうか。

プロテスタントは毎週の聖餐はおこなわない代わりに、愛餐会を模した昼ごはんを食べるところも多いようですが、そこに手間をかけるのであれば、聖餐式にこそ重点をおくべきだと私は考えます。

わたしたちの礼拝は「みことばと聖餐」です。毎週、聖餐式をおこなっています。どうぞ皆さんもいのちの糧である「みことば」と「キリストのからだ」を受け取ってください。